

寄付や助成の最近のトレンド

おかやまNPOアワード2010

日本財団システム統括グループ
情報コミュニケーションチーム
山田 泰久

ブログ「CANPAN講座」 <http://blog.canpan.info/c-koza/>
ブログ「Shop人にやさしく」 <http://blog.canpan.info/p-shop/>

1. 今、寄付が熱い！！

日本に寄付文化はあるのか？

共同募金、24時間テレビ、コンビニ募金、ユニセフなど、寄付はたくさん集まっている。

寄付が集まるところと、そうでないところの違い。

2009年2月、日本ファンドレイジング協会設立。

ファンドレイジングのゴールデンルール「誰かにお金をくださいと頼むこと、そしてありがとうと伝えること」

ネットなどを活用した寄付の集め方。

2. 最近の助成金

この地域、この分野のNPO活動を応援したい！

先駆的な取り組みで、社会的課題の解決をしたい！

助成財団はそれぞれの助成プログラムの特色を出してきている。

地域の助成金を活用して、次は全国規模の助成金へ。

助成金獲得のためには、とにかく「情報」が大事。

単独で事業をするのではなく、どれだけ周りと協働しているかも審査のポイントに。

3. 助成金活用のヒント

きっかけは助成金

- 団体の活動を充実・拡大していくためのきっかけ資金として助成金を活用。

5年計画の中で、どこで助成金を活用するか

- 適切な時期に、適切な規模の、適切な内容の助成プログラムに申請する。

実績を積み重ねることで、より大きな資金獲得へ

- 一つの小さな助成金が次の助成金獲得のための大きな実績になる。助成金で何をしたかを積極的に情報公開することも。

4. NPOの情報発信・情報開示

NPOの認証数は3万9千以上（2010年1月末）。

選ばれる団体に（信用、信頼される団体）。

良い団体とは、良い活動と良い情報発信をしている団体。

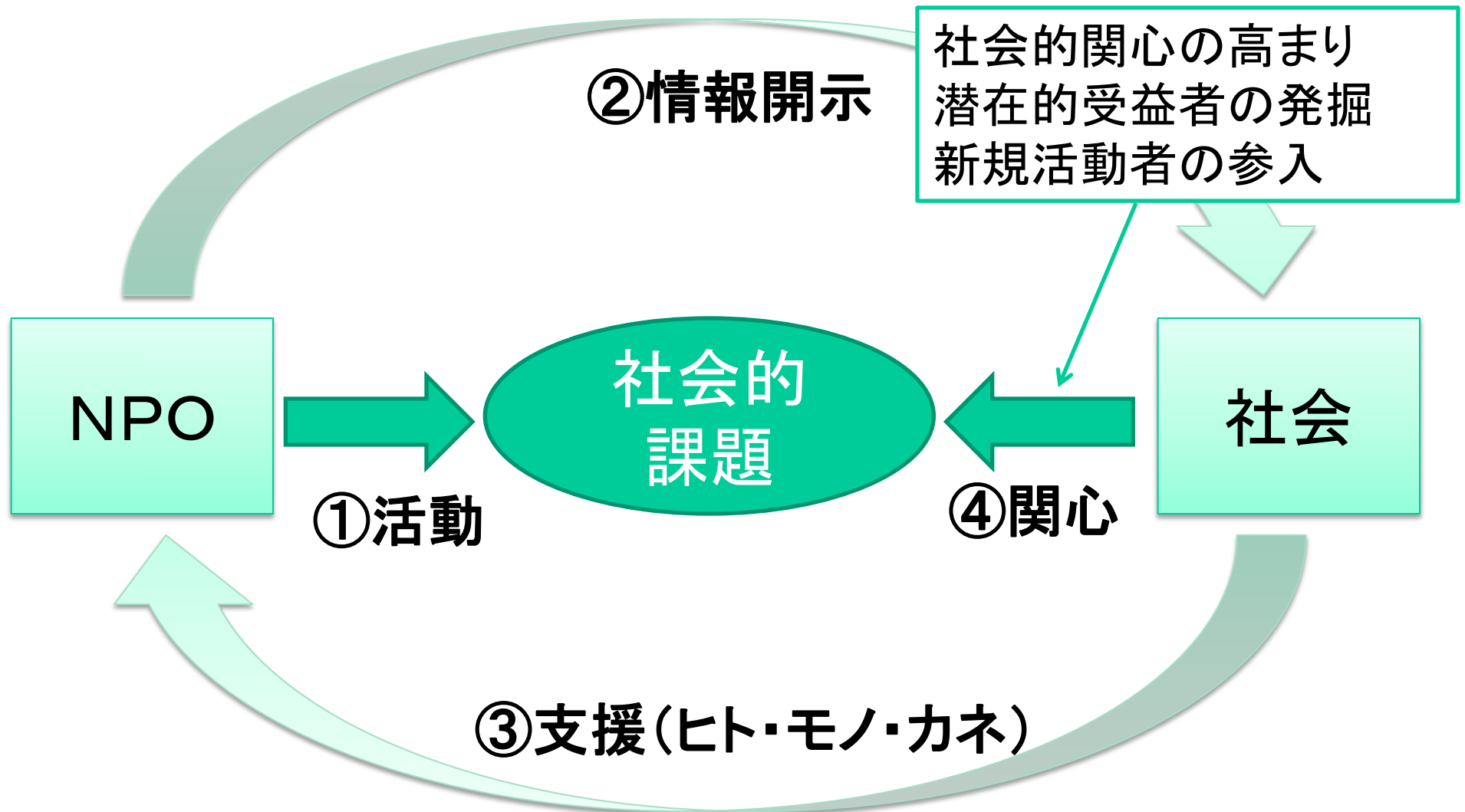
10年後のインターネットはどんな世界。ネットの活用がポイントに。

積極的な情報発信で、確実にネットワークが広がる。

情報発信が上手な団体の方法を盗む。

情報開示で「あるべき姿」をみんなで考えるきっかけに。

NPOの役割



5. 最近のトレンド

NPO×行政、助成機関、企業、地域との協働。

要求から提案へ。

コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、福祉との連携。

法人格の選択。

国（省庁）⇒先駆的団体⇒全国各地の団体へのお金の流れ。国の大型予算。

先駆的モデルとノウハウの普及。

6. NPOの情報開示とCANPAN

<情報開示に関する誤解>

- ・ いい活動をしていれば情報開示はしなくてもいい
- ・ 情報開示はできれば取り組むもの
- ・ 地域で活動する団体には必要ない
- ・ 情報開示はコスト（余計な仕事）である
- ・ 情報開示は面倒くさい、楽しくない

など・・・

6. NPOの情報開示とCANPAN

■鍵その（1）～NPOってそもそも何？～

- NPOは、社会的な使命に基づき、なんらかの課題解決を目的とする組織のこと
- 多くの課題は一組織だけでは解決できないので、他者の支援が必要
- 他者の支援を得るには、信頼が必要不可欠
- 信頼を得る第一歩は、自分たちのことを知ってもらうこと
- 信頼の基盤となるのが情報開示

6. NPOの情報開示とCANPAN

■鍵その（2）～情報開示には2種類ある～

- ・ 情報発信と情報公開
- ・ 情報発信：積極的、攻撃的、動的、自主的、能動的
- ・ 情報公開：消極的、守備的、静的、義務的、受動的
- ・ 2つの特徴と違いを理解し、できること、必要なことから取り組む
- ・ NPOの情報公開の実態（宮城県のNPO法人の事例）

6. NPOの情報開示とCANPAN

■鍵その（3）～ITの進化が与えた影響～

- ・情報にかかるコストが劇的に安くなった
- ・技術的にも簡単になり誰でもできる手段が増えた
- ・いつでも、どこでも、誰でも、ほぼ無料で情報を不特定多数の人に発信できる
- ・団体が評価されてしまう
- ・好むと好まざるとに関わらず、情報開示の取り組みについて見られてしまう

6. NPOの情報開示とCANPAN

<情報開示に積極的に取り組もう！>

- ・ いい活動をしていれば、いい情報開示もできる
- ・ 情報開示は取り組んで当然
- ・ 地域で活動する団体にも必要である
- ・ 情報開示はコスト（余計な仕事）をかけなくても可能
- ・ 情報開示は楽しい

など・・・誤解を解いて積極的に取り組もう！